

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 小池 里彩
所属 (School) 地域保健学域 看護学類
学年 (Grade) 4

留学先 (Name of overseas institution)
タイ マヒドン大学
留学期間 (study abroad period)
2019/7/30~2019/8/12

記入日 (Date) 2019/8/13

留学レポート Study Abroad Report

【参加の経緯】このプログラムは昨年度から実施されていて、実際に参加した先輩の紹介動画を見てこのプログラムについて知りました。国際交流や海外の病院の様子・海外の看護学部などは個人的な旅行では知ることのできない内容であり、また、海外の学生にも日本の様子について知ってもらう機会であると感じたため応募しました。私はタイに訪れた経験がなく、英語にも不安がありましたが、メンバーが4人いるので心強かったです。

【タイでのプログラムについて】

〈病院・クリニックへの訪問〉大学と病院が横に設立されているため、学校のバス停からキャンパスまで病院の中を通りました。外来の待合の様子はいい意味でも悪い意味でも賑やかで、学校へのショートカットに使うほど気軽に入ることのできる、開放感のある場所でした。病棟見学では、ICU と整形外科の病棟に行きました。フットポンプやストレッチャーなど日本と同じ機器を使っている部分があれば、ストーマの処理方法や様子など異なっている部分もありました。私が一番異なっていると感じた場面は入院時の部屋についてです。日本では患者さんは個室や少人数の相室で過ごす印象、ワンホールでも基本カーテンで仕切られている印象でしたが、タイの病院では外科病棟でも個室や相室はなくワンホールのようなところで仕切りもされていませんでした。看護師の作業効率・患者さんのプライバシーなど着眼点は国それぞれであることがわかりました。プログラム上のオプションで伝統的なマッサージを受けました。町中のマッサージとは違い本格的でプログラムの中で受けられたことが嬉しかったです。

クリニック訪問では、二か所に見学に行きました。私は初め「クリニック」に町の診療所のような印象を抱いていたのですが、全く異なるもので驚きました。まず、医師が少ないため看護師主体で運営しており、日本でいう行政保健師業務・ボランティアによるスクリーニングを行うといった施設でした。住民を対象に毎日プログラムが組まれており、看護師が行える範囲での処置や配薬が行われていました。訪れるのは住民だけではないため、対象者が膨大な数であるものの紙カルテでの整理がされていました。実際に訪問に同行し、タイで在宅療養している人の様子や高齢者の生活がどういふものかも見学させていただきました。当然ながら日本とは異なる生活形態で、訪問の仕方もクリニックによって異なっていました。在宅看護実習と比べると訪問中の医療的処置はされていませんでしたが、看護師さんと住民さんの関係が築かれていました。一緒に行ったタイの学生もすぐに住民の方と打ち解けていて見習いたいと思いました。



《学校内でのプログラム》学校内では、タイのヘルスケアシステムについて・マヒドン大学の学生の看護技術演習についてを学びました。日本では当たり前の保険証交付の医療保険制度や介護保険制度などはないものの、タイも高齢化社会が問題となっていることや職業に応じた保険がありそれぞれ保険者が違うことなどがわかりました。看護技術演習では、遠隔操作できる模型人形など府大にはない設備があつて感動しました。また大学紹介や日本のヘルスケアシステム、文化について外国の学生に向けて英語でプレゼンを行いました。スケジュールの都合上外国の学生の発表を聞くことができなかったことが残念です。

また、大学をごちゃまぜにしたグループでそれぞれのテーマについてディスカッション・発表をする機会もありました。テーマは各大学が一つずつ考えてきて、くじ引きで決めました。私のグループのテーマは「授業中に寝る学生についてどう思うか？」でした。どこの国の学生も同じなんだなあと思いながら真剣にふざけながらディスカッションしました。はじめはとても面倒だ感じていましたが、いざやってみるととても楽しかったです。

《国際学会》平日ラスト2日は Princess Chulabhorn International Oncology Conference に参加させていただきました。学会に参加するのは初めてだったので緊張しました。医学系の発表がメインでしたが興味のある分野の発表もあったので楽しく参加することができました。タイのプリンセスがオープニングセレモニーに出席されるとのことだったので学生も参加させていただけたのもいい経験でした。



《他大学の学生との交流》タイの学生とは2週間、他の国の学生とは1週間という短い期間でしたが、プログラムの中でとても楽しい時間を過ごしました。学生は日本から2大学、台湾から3大学、インドネシアから1大学が来ていました。大阪府立大学以外は交換留学生だそうです。看護衣もそれぞれでナースキャップをかぶっているところやスカート型のところもありました。実際タイの看護師さんは基本ナースキャップをかぶっていました。タイの人から見れば日本の看護師は不潔に見えるのでしょうか、聞き忘れました、気になるところです。

プログラム中のクリニック見学、学校でのアクティビティにてマヒドン大学の学生が主導してくれ、病院では4か国の学生が一緒に見学しました。一緒に見学することで、ほかの国ではどうなのかがその場で共有できました。



【放課後・休日の過ごし方について】学校としてのプログラムは遅くても17時頃に終わるので、毎日外食や観光地に出かけました。現地はタイ語がメジャーで電車に乗ることも難しく、英語が伝わらない人がいるため、基本的にタイ人の学生にお勧めのスポットに連れて行ってもらいました。毎日学生から「今日なにをするの？」とラインが入るので頼みやすかったです。外食時のメニューもタイ語で書いてあり現地の食べ物であるため想像ができず英語で教えてもらいました。毎日私たちが行きたいところを聞いてくれて、ホテルまで迎えに来てくれたり、電車の乗り方を教えてくれたり、マヒドン大学の学生には感謝しかありません。私たちが行ったバンコクには有名なお寺が多くあるので、休日にチャオプラヤ川を渡るための船に乗って回りました。これは途中まで一緒に行ってもらって、途中から私たちだけで行ったのですが慣れない土地でかなり難しかったです。あと日本では有名なのに外国では知られていないスポットがあります。連れて行ってもらったら日本人しかいなくてここは日本かと思いました。

また、日本には夜市がほとんどないので安価で大きなマーケットに行けたので楽しかったです。いくつか有名な夜市があり、そのうちの2つに行きました。2つとも現地の人もよく来ている場所で、観光客も多かったですがローカル感を味わいたかった私にとってはとても楽しい経験になりました。



【まとめ】はじめは先輩が行った動画を見て楽しそうだったからという理由で応募しましたが、2週間を終えた今研修以外でもとてもいい経験ができたと思っています。外国の医療やサービスについて知ること、看護師を目指す外国の学生と交流すること、今年だけかもしれませんが国際学会に参加することはこの機会を逃すとなかなかできない体験なので、参加してよかったと思いました。私は受験英語しか勉強しておらず、コミュニケーションとしての英語、特に話すことはとても苦手です。それでも他の国の学生は私が話す言葉をちゃんと聞いてくれたし友達もできました。帰ってきても連絡を取り合う仲の友達もいます。2週間という短い間ではあったものの、帰ってきても話せる友達ができるのは海外研修ならではの事だと思います。

ただ次年度もこのプログラムがあるなら参加する後輩には医療英語を勉強しておいてほしいです。正直1年生の時に必修英語で習った医療英語は、重要なものしか覚えておらず聞き取ることもできませんでした。学会ではスマホで翻訳しながら聞いてました。ある程度の医療英語は覚えておかないと外国の学生と交流するときにも困るので勉強しておいたほうがいいと思います。私は事前準備でそれだけ後悔しました。

最後に、今回のサマースクールを用意してくださった先生や関わってくださった方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

